

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ここは家です」という言葉には、入居者さんが今まで通りの生活を継続し、住み慣れた地域で、「家族」のようなスタッフが、寄り添い、少しだけお手伝いをしながら、入居者さんを支援することを「理念」として掲げています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム会議、申し送り等で、常に理念を念頭に置きケアをするよう努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内に理念を掲示したり、月1回のホームだより「きよメール」にも理念を記載し、常に理念を伝えるよう努めている。また、運営推進会議でも理念についての説明をし、御家族や町内会の理解を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会のボランティアの受け入れや、老人会の定例会の参加、小学生との交流を図っているため、散歩中にお会いした時は、声を掛けて下さる。また、外行事等で近隣の人が立ち寄り、参加されることもある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に所属しており、老人会の定例会にも毎月参加しています。また、老人会のボランティアも来ていただいたり、向かいの小学生との交流も行っております。	○ 保育園児との昼食会など、現在検討中。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	老人会に参加することにより、認知症についての正しい理解をして頂いている。また、ホームへのボランティアは、地域の高齢者の生活の活性化に繋がっていると思う。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に関わることで、事業所の問題点や良い点、改善すべき点がより明確になる良い機会と捉えている。また、評価の結果をホーム会議、運営会議で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、サービス、評価への取り組み状況等についての報告を行っている。そこで出された意見、要望等はホーム会議により全スタッフで検討し、毎日のケアに取り入れて行くようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、地域の地区懇談会にて「グループホームと認知症について」の説明と、「施設と地域の関わり」というテーマで、老人会への参加の様子や、小学生との交流についての紹介をした。	○	さらに、運営やサービスについての課題があれば、市の担当者と協議しながら適切に解決するよう積極的に取り組んでいきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在制度を利用する必要性のある方はいない。一部のスタッフは研修等で制度に関しての知識を得ているが、詳しく理解できているスタッフは少ない。	○	研修に参加したり、勉強会を実施し制度に関しての知識を深めて生きたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	勉強会を通して、高齢者虐待に関しての法に関する知識を学ぶことと、防止対策について話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ前に、契約書や重要事項等をよく読んでもらい、再度文書及び口頭で伝え、不明な点や疑問点がないか尋ね理解、納得してもらうよう努めている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員がその都度利用者の態度や言葉から不満や苦情を聞いたときは、申し送りでも職員に周知させ、ケース検討会議、ホーム会議で話し合い改善に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、個人の写真付きの「きよメール」を送り、日々の生活の様子を伝えています。また、ホーム便りや担当スタッフのコメント等でも伝えている。1ヶ月に1回の預かり金精算時や、日々の面会、また状態に変化がある時など、常日頃家族とのコミュニケーションを心掛けている。	○	職員の異動等に関しては、運営推進会議で報告していきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で、ご家族からの意見や要望などが上げられる。普段の面会時にも、気軽に要望を言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者と管理者の「運営会議」が月2回、管理者と職員の「ホーム会議」が月1回あり、その都度、職員の意見を取り上げ、問題点などの話し合いの機会を設けています。また、常日頃からコミュニケーションを図り、職員が意見や提案がしやすい環境を心掛けている。	○	スタッフとの個人面談をし、一人ひとりが意見や提案を言えるような場を作りたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化に応じて、勤務調整をすべきかホーム会議で話し合い検討している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフがやりがいをもって仕事に励めること、また働きやすい環境を提供できるよう努力している。最近ではスタッフも定着しつつある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の毎週の「勉強会」では、医療や介護について学んでいる。また、月1回のブログを活用したレポート報告、ホーム会議での勉強会、また清田区グループホームの勉強会、外部研修に参加することで育成されていると思う。</p>	○	<p>研修計画をたてたが、実行できなかったものもある。今後計画的に、実施できるよう努力したい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>清田区グループホーム交流会に参加し、管理者や職員の交流会や勉強会、親睦会等で交流を深め、お互いの質の向上を目指しています。</p>	○	<p>清田区のグループホームへ見学へ行き、情報交換している。今後も継続し、情報や知識を豊富にすると共に、入居者同士の交流も行ってみたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩の確保や小さな事でも、話してもらえるような姿勢を大切にしている。コミュニケーションを取りやすい環境づくりを常に心掛けている。</p>	○	<p>スタッフとの個別面談を実施し、常日頃から感じていることを話せる機会を設けていきたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の個々の努力や実績、勤務状況について、管理者が運営者に伝え、その都度必要なときに運営者と職員の面談にて、向上心を持って働けるよう配慮や対応がされています。</p>		<p>自己評価票、管理者による評価票を作成し、人事・給与を決める評価基準を行う予定。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人、もしくは御家族、前に入居してた施設の相談員等から情報を集め、不安や困っていることを全職員が把握し、安心して生活できるよう努力しています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用に至るまでの経過や不安や求めている事等、よく聴くための時間を充分にとり、信頼関係に努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に本人や御家族の状況から、何が必要か見極め話し合い、必要であれば他のサービスを利用出来るように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居する前に本人、御家族と共にホームに見学して頂くよう促している。また、こちらから出向いて本人とお会いし、安心感をもってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として「尊敬する」姿勢を忘れず、声掛けや態度に気をつけながら、普段の生活の中から意欲を引き出せる働きかけをしている。	○	月に何回か、入居者が昼食の献立から調理までする日を決めている。普段からもそのような働きかけを、多くしていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に御家族の立場に立ち、気持ちを理解し、喜怒哀楽を共有できるような関係を目指している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にはホームでの生活の様子を、小さなことでも伝えるようにしている。また行事の参加を呼びかけ、本人と御家族が楽しいひと時を過ごして頂けるようにしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前入居していた施設の職員との手紙の交換、また前に住んでいた自宅の訪問等、本人が望む人との交流や、行きたい場所への訪問をできる限り叶えてあげるよう努力している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		○	利用者同士の関係が、良好にいかない方もいるので、時間をかけてその関係が改善できるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了しても、何かあれば気軽に連絡を頂けるようにと伝えている。今のところ、こちらからは特別な対応はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケース担当者が中心になりつつ、スタッフ全員が日々のケアの中、本人の思いを受け止めるよう努力している。また、申し送りやケースカンファレンス、ホーム会議の中で、スタッフ間の情報共有に努め検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の記録用紙をもとに把握に努めているが、家族からの情報が少ない場合には把握しきれない場合もある。	○	センター方式の記録用紙を御家族にお渡しし、記入を依頼していたが、全入居者の情報があるわけではない。今後、こういった情報の必要性を十分に説明し、できるだけ協力して頂けるように促していきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の生活の様子を記録(排泄・食事・体調の変化等)し、暮らし方や生活のリズムをつかみ、本人の全体像をよく理解するよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ間では意見を交換し合い、アイデアをケアプランに生かし実行している。本人や家族の意向も個別に聞くことで取り入れているが、カンファレンスへの参加を日常的にはしていない。カンファレンス内容は月1回のホーム会議で報告し、全員に伝えるよう努めている。	○	ケース検討を計画的に実施し、カンファレンスへ本人と御家族が参加できる形で検討したい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状態が変化した場合は、本人・御家族・職員の意見を取り入れ、見直しをし適切な介護計画書を作成しています。	○	状況が変化しても、担当職員の勤務や勤務人数、業務等などの事情で新しいプラン作成に時間を要してします。状況変化後すぐに、新しいプランを作成できるよう工夫していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫等は個別の記録に記載すると共に、申し送りでも口頭で伝えている。ケース担当者がそれらの情報を収集し、課題を明らかにしてカンファレンスにかけ、介護計画の見直しに活かしている。	○	気づきや工夫について、記録上把握しにくくなっているため、個別記録の様式を変えてわかりやすいよう工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	きよたⅡとの共同の行事を行ったり、デイケアでの行事にも参加している。また、デイケアOTIによるリハビリ指導、当医院の往診や看護師による健康管理も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	老人クラブ、地域の文化祭に参加している。また、小学校の解放図書館へ出かけたり、近隣の理・美容室、飲食店へ出かけることもある。大正琴やカラオケ等のボランティアの受け入れも行っている。	○	災害時のボランティアも依頼しており、避難訓練を予定していたが悪天候のため、中止となった。今年はボランティアを含めての訓練を実施する予定。また、近隣の保育園の子供達との交流も検討中である。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスは利用していないが、他グループホームへの見学を実施し、ケアの取り組み等を学んだ。	○	本人の意向や必要性があれば、他のサービスを利用するための支援を検討していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センター職員が参加してもらい、提供しているサービスについてご意見、アドバイス等いただいている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の医院からの往診と、医療連携体制の看護師の定期的な日常の健康管理をしている。	○	本人と家族の希望する医療機関との連携もとっている。通院介助は基本としては、御家族対応となっておりますが、困難な場合は職員が代行する事もある。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設医院の医師に日常の利用者の生活の様子を相談したり、認知症の進行に伴う介護に困難がある場合は、提携医療機関の受診の指示や助言をもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設医院の看護師に日常の健康管理を相談し、必要であれば医師からの指示をもらっている。体調に変化があった場合は、気軽に相談できる体制になっている。	○	毎週月曜日に看護師による日常の健康管理をさせていただいている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換や相談に努め、家族と併設医院の医師と相談しホームの対応が可能であれば、早期の退院支援を行っている。	○	入院後は家族の対応になるが、職員も可能な限り見舞うようにし、状態を確認している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応に関わる指針の説明をし、本人と御家族の希望を聞き、ホームが対応できる最大の支援をするよう説明している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や御家族の意向を大切に、ホームで出来ることを明確にして、その中で安心して終末期を過ごせるよう、医師や看護師との連携を深め、その準備に取り組んでいる。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り先へは当医院医師とホーム側からの情報提供票をお渡ししている。また御家族及び関わるケア関係者と十分に話し合う機会を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保として個人情報がもれない様に配慮している。部外者への対応としては、記録類は鍵のかけられる棚に収めている。また、記録の記載の仕方としてインシヤルを使用したり、破棄する書類は必ずシュレッターを使用し、外部に漏れないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の思いを聞き出すような、声かけや自己決定しやすい質問の仕方で行っている。	○	日常生活の中で小さいことでも、本人が意思決定する場面をつくる配慮をもっとしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の状況を見て、なるべく本人の希望に沿った生活を送れるよう支援している。	○	業務を効率よく行うことにより、時間にゆとりが出来た。利用者のペースを大切にしながらの介護が出来るようになってきている。今後も業務の見直しを図り、利用者さんのペースに合わせた支援を心がけたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が望む店がある場合は希望に沿って同行し、ない場合も訪問美容や近所の理美容店を利用し身だしなみに気を配っている。	○	自己表現が難しい方には、御家族の意見や生活暦をもっと参考にしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聞いてメニューに取り入れたり、出来る方には料理や盛り付けをしていただいている。後片付けは毎食後一緒に行っている。	○	料理や盛り付けはもう少し一緒に行える機会を増やしたい。また、出来ない人でも近くにいてもらい、しているようなふん囲気だけでも味わってもらえるよう支援したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ホーム内禁煙としているため、タバコに関してはお断りしている。今現在喫煙者、お酒を飲みたいと言われる方はいなく、行事や外泊などで嗜む程度である。おやつに関しては、午前と午後の2回利用者さんの意見を聞きながら、提供している。	○	体重増加傾向の方が何人かおられ、おやつに関しては少なめに提供している。健康面も考慮しつつ、美味しい物が食べられよう工夫をしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンや状況の記録を行い、一人ひとりのパターンを把握して排泄の失敗やオムツの使用を減らすように努めている。	○	失敗しても自尊心を傷付けないように、声かけなど配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望があればできる限り応じているが、スタッフの勤務体制から夜間の入浴(18:00以降)は不可能である。	○	午後からが主な入浴時間になっているが、状況・状態を見て午前に入浴することもある。出来る限り、本人の希望を取り入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間良眠してもらうように、一人ひとりの生活習慣を把握し、日中は活動的に過ごせるよう支援している。	○	夜間寝つけない時は、温かい飲み物を提供したり、時には添い寝をして安心感を持ってもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日みんなで行うアクティビティの他に、個人的に外出や手伝い、楽しみごとの支援をしている。毎月の行事や町内会やきよたⅡとの交流の支援もしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は職員が行っているが、必要な時はその都度使えるようにしている。	○	外出先での支払いは、ほとんど職員が行っている。今後はその人の力に応じて、支払いをしてもらうよう支援してみる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には気分転換に散歩に出たり、買い物に出かけたりと極力外へ出る機会を多く持つようになっています。	○	介護度の重い方も近くの公園や庭先に出て、外の空気に触れ合う等、出来るだけ皆さんに外に出ていただけるよう支援している。また、ディケアの車椅子ごと乗車できる車をお借りし、ドライブなどにも出かけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月の行事の中、または利用者が希望する場所をプランに取り入れ、その中で御家族の方も参加していただけるよう声を掛けている。	○	温泉を希望された利用者があり、スタッフと一対一で行ったことがある。他にも行きたいと希望されている方がいるが、まだ実行できていない。デパートめぐり等希望されてる方もいるので、プランに取り入れ実行できるよう努めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	御家族や友人からきた手紙に返事を書いたり、はがきを出すなど希望に応じていつでも支援している。	○	電話や手紙のやり取りは、希望される決まった方しか行っていない。訴えられない方に対しても、年賀状や暑中見舞いなど出せるよう支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族や馴染みの人の訪問があった際は、プライベートの時間を居心地良く過ごしていただけるよう、工夫している。	○	訪問があった際は居室、または落ち着けるスペースへ誘導しています。
(4) 安心と安全を支える支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないケアの理解、言葉での抑制にも意識をもって取り組んでいる。	○	身体拘束についての勉強会を検討している。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	午後20:00～午前7:30頃までは、防犯上の理由から施錠し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーが備えつけられています。	○	併設されている医院の通路は、医療器具や患者がいる場合があるので、鍵をかけている。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は入居者の状態に合わせた見守りをしている。プライバシーに配慮しながら夜間は、最低でも1時間に1回は、巡回を徹底している。また、	○	夜間あまり頻回に、居室を覗かれることを嫌がる方もいるので、そのような方には十分に配慮しながら巡回を行っている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や洗剤、誤飲してしまいそうな物に関しては利用者の手の届かない場所に保管している。必要とされる利用者にはその都度必要な時にお渡ししたり、危険性がない利用者には持参していただいたり、一人ひとりの状態に応じている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のひやりハットを記入し、危険の予測をし、事故防止に取り組んでいる。	○	スタッフとのホーム会議、経営者との運営会議にて、事故やひやりが起きた原因について話し合い、安全対策に取り組んでいる。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成し、ホーム内で緊急時対応の勉強会を行っている。	○	利用者が持っている病気を理解し、急変時に備えた対応の訓練を行っている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている。	併設の医院、デイケアとの合同の避難訓練を年2回行っております。	○	町内会の近隣の方5～6名の地域ボランティアによる、協力体制が出来ている。今後はボランティアを含めての訓練を実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p> <p>自由に暮らしていただくこと、その反面にあるリスクについては常に御家族に説明し理解していただいている。</p>	○	ひやりハットについても、極力御家族に説明するようにしている。行動を抑制することなく、どのように安全を確保するかスタッフで立てた対策を報告し、御家族の意見もお聞きしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>普段の状況を把握し、毎日の顔色、食欲、状態の変化に留意し、異常があればバイタル測定し医師に連絡し指示を受けている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>服薬ファイルを作成し、処方箋を綴り職員が目的、副作用を理解しやすくしている。誤薬予防として薬セット、チェック、服薬はそれぞれ別の勤務者が行う為、3重のチェック体制となっている。</p>	○	服薬による変化が見られた場合、医師や看護師に連絡し、指示をもらっている。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>便秘予防として毎朝牛乳や乳製品を摂取してもらっている。食事は食物繊維の豊富な食材を選び、自然排便につながるようにしている。また、適度な運動も心掛けている。</p>	○	牛乳の他、野菜ジュースも摂取するようにしている。運動不足にならないように散歩、体操を毎日取り入れている。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>毎食後、一人ひとりの状態に応じ、声かけ見守りまたは、介助で歯磨きや義歯洗浄とうがいを行っている。就寝前は義歯の洗浄後、洗浄剤につけている。</p>	○	食前、食後はお茶を摂取し、口臭予防に努めている。
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>調理担当者が野菜中心に調理し、一人ひとりの疾病、好み、または体重を把握し配膳している。嚥下状態に応じ、おかゆ、ゼリー、で対応している。水分の摂取量は通常1日1000～1500CC摂れるよう努めている。</p>	○	年に1回管理栄養士からのアドバイスをいただいている。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>感染症に対する専門的情報を医師からもらい、マニュアルを作成し、ホーム内で共有している。インフルエンザワクチンは、利用者や職員も必ず受けている。</p>	○	ホーム会議で勉強会をしたり、ノロウイルスに関しては毎日次亜塩酸ナトリウムで手摺り・各部屋を消毒をしている。また、換気もまめに行うようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾は毎日消毒している。ピューラックスの使用法をマニュアル化し、実行している。食材は週4回配達され新鮮なうちに使い切っている。	○	定期的に冷蔵庫内の賞味期限をチェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周辺に草花を植え、ベンチもあり親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	光はレースのカーテン照明で、その都度適した明るさに調整している。音は不快に感じないように常に配慮している。お花を生けたり、季節の飾りつけを一緒に作り飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファを3つ置き、気の合った同士で座ってもらっている。また2Fの廊下には椅子とテーブルを用意し、談話室として利用している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの物を持ち込むよう説明している。中には処分しての方もおられ、新しく購入したものやホームもののものを使用いただいている。	○	家具だけでなく、思い出の写真やアルバムなど持ってきていただき置いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除機は出来るだけ窓を開けて、空気の入替えをしている。臭いが出る箇所は消臭スプレーを設置している。1階に加湿器、2階には洗濯物干しを置き湿度を確保している。	○	湿度計、温度計を置き調整している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>必要とする箇所に手摺りが設けられている。また、障害物を置かない工夫や環境整備に努めている。</p>	<p>○</p>	<p>浴室への段差の解消、浴槽のスムーズな入浴のための補助具の必要性について検討していきたい。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室には表札や、本人の写真を貼ったりと迷わない工夫をしている。またトイレへの表示や日付の設置をしている。</p>	<p>○</p>	<p>日付は設置してるが、もう少し大きな文字にする。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前の庭に草花を植え、水やりや草取りをしてもらっている。ベンチを設置しており、夏場は日向ぼっこやおやつを食べたりと、くつろぐことができる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ✓②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ✓③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ✓②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ✓②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ✓②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ✓②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・地域住民や町内会長さんの理解とご協力があり、ボランティアの受け入れや地域との関わり少しずつ深まっている。
- ・同法人の医院との連携がスムーズであり、医療に関して利用者の家族に安心と信頼を得ております。
- ・スタッフが明るく優しく、常に利用者のことを真剣に考え日々の介護に励んでいる。
- ・一般住宅を改築していることから、家庭的な雰囲気がそのまま残されている。
- ・漢方浴を利用して頂いている。